

令和4年度 危機管理防災局組織目標

組織名	危機管理防災局	局長	樋口 健志
組織の目的・方向性	市民の安心・安全な暮らしを守り、ずっと安心して暮らせる災害に強いまちづくりのため、市民と協働による地域防災力の向上と、市の危機管理能力の向上を図ることで「安心政令市にいがた」の実現に努めます。		

危機管理防災局組織目標

新型コロナウイルス感染症対策に全力で取り組み、一日も早い収束に努めます。

令和4年3月に発生した福島県沖を震源とする地震など、過去の災害で浮き彫りになった様々な課題を踏まえ、本市においても迅速かつ的確に対応できるよう、人員や物資等の体制や各種計画の見直しを進め、実効性を高めます。

あわせて、自主防災組織へ引き続き支援を行うとともに、災害時の地域の安全を守る拠点となる避難所について、地域住民が主体となり助け合って運営する体制づくりを進め、「共助」の意識をいっそう推進し、地域防災力の強化を図ります。

また、様々な機会を捉え、効率的な研修・訓練を実施し、自然災害や国民保護計画に対する本市の危機管理対応能力の向上を図ります。

重点目標

- 1 地域防災計画の充実を図ります。
- 2 地域防災力の向上を図ります。
- 3 市の危機管理対応能力の向上を図ります。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	3	達成数	3
取組結果	1 地域防災計画の充実 受援体制（物流）や災害用トイレについて関係部局と協議するなど、必要な見直しを行うとともに、帰宅困難者対策ガイドラインを策定しました。				
	2 地域防災力の向上 避難所の運営については、区毎に避難所運営体制連絡会を開催し、避難所運営委員会の立ち上げを支援しました。 自主防災組織による防災訓練については、昨年度に引き続き助成を拡充し、訓練の実施を呼び掛けたことで、参加者数は増加しました。 防災士が地域の防災リーダーとして活躍できるよう、スキルアップ研修を開催				

	<p>するとともに、新潟市防災士の会の活動を支援しました。</p> <p>3 市の危機管理対応能力の向上</p> <p>地震、洪水、土砂災害などの研修・訓練を通じて防災局職員のスキルアップを図りました。また、今年度の訓練では発災直後かつ新型コロナ対応も取り入れ実施するとともに、速やかな災害対策本部の設営など、本市全体の対応能力の向上や、意識醸成を図りました。</p> <p>洪水災害の際の防災拠点となる天野河川防災ステーションについて、消防団の待機場所や水防資機材置場となる天野水防センターを整備するとともに、水防資機材等を配備し、水害に強いまちづくりに寄与しました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応では、第7波の感染拡大期に県から発令された「BA.5対策強化宣言」や、第8波におけるインフルエンザとの同時流行に備え、庁内の関係部署と調整し、市民への呼びかけなどを実施しました。</p> <p>原子力防災については、10月29日に行われた新潟県の住民避難訓練に初めて参加し、避難経路所と避難所を開設することで、長岡市民約80人を受け入れました。また、毎年実施している緊急時通信訓練にも参加し、原子力災害時の連絡体制を確認しました。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 大雨や大雪、暴風雪警報の発表による対応など、実践を通して得た経験や教訓を災害対応に活かし、各対策部の業務について不断の見直しを行い、地域防災計画の充実に努めます。 ● 女性の視点を取り入れるなど、避難所体制運営連絡会を通して誰もが安心して避難生活を過ごせる避難所づくりに取り組むとともに、引き続き、自主防災組織への支援、防災士の育成に取り組み、地域防災力の向上を図ります。 ● 新型コロナウイルス感染症対策については、5類移行の状況に合わせ、市民への呼びかけを引き続き行っていきます。また、新潟県が進める「三つの検証」を注視しつつ、市町村研究会での意見交換を通して、本市の原子力防災の実効性を高めます。